子どもを水から守ろう

―あとが絶えぬ水の事故―

七、八月は「子どもを水から守る運動」の強調月間です。しかし、痛ましい水死事故はあとを絶たず、県下ではすでに百一人の水死者を記録し、子を持つ親に大きなショックを与えています。暑さも本格的に訪れ、市内の小・中学校も夏休みにはいり深刻な問題としてクローズアップされてきました。どうしたら子どもたちを水から守ることができるでしょうか。

暑い夏につきまとう〝水の犠牲者〟はあとを絶ちません。市内でも、ことしの一月から六月まですでに四人の水死者を出し、そのうち三人までが、かわいい子どもの犠牲です。

昨年発生した水の事故は四件ですが、これから日ましに暑くなり開放的になることを考えると、ゆだんはならないというものです。これらの事故は不注意によるものが大きく、水死者の年齢（一月―六月）で十六歳以上が減っているのに、十五歳以下が二人と昨年同期よりも一人ふえていることなど注目されます。

また原因については、泳ぎがうまくないのに深いところへ行く、おとなといっしょに行くようにいっても友だちと泳ぎにゆく、など本人自身の不注意によるところが多く、家庭側に子どもの水死事故をなくしようとする熱意が不足している面があるともみられています。

市では「子どもを水から守る運動」を強力に押し進めますが市民のみなさんにも次のことに注意されるよう呼びかけています。

①子供たちだけで泳ぎに行かないよう指導をする。
②泳ぎのできる人や、おとなといっしょに行き一人で行かないこと。
③準備運動をさせること。
④疲れないうちに水からあがること。
⑤遊びに行く場所と、帰宅時間、グループの名前をメモに必ず書かせること。

水の犠牲は人の力によって最小限にとどめることができます。かわいい子どもたちを失ってからではもう遅いのです。子どもたちを水から守りましょう。

きたぞ台風シーズンが

被害防止に万全を

八月は台風シーズンにはいります。昨年の風水害（台風大雨・強風）による被害状況をみると伊勢湾台風、第二室戸台風のような〝大物〟はなく比較的平穏に過ぎたといえます。

新潟地方気象台の長期予報によれば、八月は夏として変わりやすい天候で北海道を中心に気温は低めとなる傾向があります。北陸の平均気温はおおむね平年並に見込まれますが、ことによると北日本に似た傾向が現われるかも知れません。

月の降水量は平年並または日照やや少ない見込みです。台風は八月中・下旬に二個、本土に上陸するものがありそうです。

しかし災害は「忘れたころにやってくる」といわれ、家庭でもできる防止方法や心がまえを、もう一度検討してみたらどうでしょうか。

気象台の話しによれば①風速は最大風速〇〇㍍と通報されますが、瞬間最大風速はその一・五倍増しとなります。②台風が新潟県を通過し日本海側にぬけるとき、南東の風が強く、そのあと南西の風が強くなります。③台風が山手を通るとき、雨が多く日本海側は強風が吹きます。④一般に風速二十㍍では屋根瓦が飛び、三十㍍では道にある小石が飛び突風二十㍍では屋根が飛びます。また台風時の心がけとして、①家屋のスジカイ補強②火の始末③体を守る避難行動など特に注意すべきだとのことです。

いずれにせよ来てほしくないもの、それは台風で、今からスジカイ用材、クギ、カスガイなど用意をしましょう。

家庭教室

不規則な生活は赤ランプ

子どもたちの楽しい夏休みがはじまりました。夏休みは期間が長く、学習と健康にあまりよいときではありません。家庭では他の休暇とちがって次のようなことに注意してください。

(1)学習については、無理な計画をしないことです。宿題は毎日の分を確実にやることが大切です。また、通学時にはできないような継続的な実験、観察、製作などや、まとまった読みものをすすめ、個性や特技を伸ばすことです。

(2)健康については、暴飲暴食をしないことです。手足は清潔にし、日射病、伝染病などの予防を考えてください。また、校医から注意を受けている疾患を休暇中に治療し、平素の体力を考えてできるだけ身体を鍛え危険防止、安全の保持に十分気をくばってください。

(3)生活指導では、放任や無関心となることのないようにしてください。交友関係についてはよく知っておくことが大切です。

言動や持ちものにも絶えず注意をして、自分の行動に責任をもたせるように仕向ける指導を心がけ、ふしだらな生活におちいらせないよう努力しましょう。

堀や川をきれいに

ゴミ捨て場では危険

標札を立て、回覧板をまわし協力を願っても、堀や川にゴミが捨てられます。せまい堀にはすぐゴミがたまりウジがわきハエが発生します。堀にゴミがいっぱいあると、防火の面からも、衛生の点からも大変悪いものです。

住みよい郷土の建設にみんなで力を合わせましょう。

夏と栄養

夏はだれでも食欲がへり、食べる量が少なくなります。そしてあっさりしたものを食べがちです。

しかし暑さに対する抵抗力を強めるには、たん白や脂肪ビタミンなど、からだの働きを十分にさせるだけの栄養をとることが大切です。栄養がかたよらない、食欲を感じさせるくふうが必要です。

図書のご案内

図書館では新刊書を購入しました。みなさんのご利用をまちしています。

▽小説＝辻美沙子著「林檎の花咲く町」・尾崎士郎著「わが青春の町」・五味康祐著「うるさい妹たち」・菊村到著「夜を待つ人」・源氏鶏太著「東京一淋しい男」・大仏次郎著「手紙の女」・由起しげ子著「小さな結婚」▽その他教養本もはいりました。

【保健メモ】アセモノ予防に

暑さで汗せんが炎症をおこしてできる皮膚病がアセモノです。これが化のうして、トビヒや子どものジンマシンの原因になることもあります。皮膚の弱い乳幼児は、とくにアセモノができます。

予防法としては、涼しくすることで、風通しのよいへやに寝かせることです。それから汗の吸いとりやすいはだ着を着せることです。日中はできるだけうす着にし汗ばんだら手まめにはだ着をとりかえてやることです。

暑い日には、一日三回ぐらいの行水をしてやり、この場合、水だとあとでかえって汗がでるので、30度から35、6度のぬるま湯を用いてください。またタルカムパウダーをサラッとつけるのも効果があります。

波紋を投げる年少非行

―不良化防止に協力を―

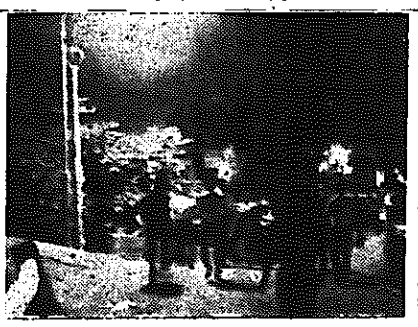
解放的になる夏のシーズンは全国的にも犯罪が増加します。最近とくに青少年の犯罪がふえることは社会問題として大きな波紋を投げかけています。

市内での発生件数（一月～六月まで）をみると、昭和36年は48件、37年は87件、38年は91件です。また、刑法犯をみると昭和37年は24件、38年は30件と増激が目を引きます。犯罪別にみると窃盗犯が十四件で十五才以下の子どもたちが多く、非行内容の悪化、非行年令の低下とともに夏の性犯罪でつけねらわれる若い女性の被害が多いことも現代社会の特徴です。

非行の原因は家庭の不和、子どもらの放任が上げられ親たちの反省も望まれます。

少年の不良化防止運動が強力に展開されますが、健全な環境の中で未然に防ぎ、家庭の楽しいだんらんの場で教育、指導して非行少年をなくしたいものです。

	昭和36年	37年	38年
刑法犯	20	24	30
特別法犯	5	10	9
ぐ犯	23	53	52
計	48	87	91



夜の町に遊ぶ青少年たち

恐ろしい伝染病

恐ろしい伝染病の発生は依然として高率を占めています。夏は伝染病が威力を発揮するときです。

市内では、ことしにはいってすでに十四人が伝染病にかかり、家族六人が倒れるというその威力をまのあたりに見て驚きに絶えません。

赤痢、疫痢

これは口から体内にばい菌を運びおこすものです。原因については、飲食物によるものが多く不注意からまねくものです。

また、赤痢は近年死亡率が低く病状が軽いため放置しやすく、素人治療で治ったとおもってもばい菌が体内にひそんでいることもあります。このため集団発生を呼びおこしやすいものです。

日本脳炎

十五才以下の年少者に多くかかりやすく、原因は蚊、直射日光の下で長い間遊ぶ、疲労などが上げられます。

また、この病気にかかると30～40%が死亡し、死をまぬかれても20～30%は手足の「まひ」や「はくち」などの精神障害をのこす残酷病です。日本脳炎のヴイールスをもつ蚊を撲滅し、予防注射などをして、かからぬようにいたしましょう。

もし、伝染病にかかったらすぐお医者さんからみてもらうことが大切です。

高年の人、食事前、調理前、外出後とよく手を洗ってからぬよう注意してください。